

ました。企業のみならず、現地の高校や大学を訪問する「ハイスクールシャドウ／カレッジシャドウ」も盛り込まれ、参加者全員大いに刺激を受けたそうです。

http://www.ja-japan.org/program/jobshadow_newyork_report.html

● 最先端の学園ホームページ

学園のホームページは、その内容の充実度と速報性が高く評価されています。とりわけ帰国生を持つ保護者にとりましては、学校のあちこちで今、何が行われているかを知ることができますし、学校からの配布物も閲覧できるようになっていますから安心です。

例えば、「配布文書一覧」をクリックすれば、教務部、図書館、学習指令センター、各学年からどんなプリントが出されているか、一目で確認できます。万が一、学校で配られたプリント類が生徒のカバンの中で眠っていたとしても、保護者はホームページでそれを読むことができるわけです。

学校全体の行事計画やニュースにつきましても、広報部だけでなく、各担当の教員から提供されています。修学旅行や海外研修、校外学習などでも、現地から引率教員が携帯電話でニュースを送信し、直ぐにホームページに載ります。

2007年4月から共学校になることなど、学園の大きな変革に臨むに当たっては、学園関係者全員の共通理解を得るためにホームページは大きな役割を果たしています。そしてそれは、これから学園に関わろうとくださる皆様にとっても、有益な情報源となることでしょう。

広尾学園中学校高等学校
(現、順心女子学園中学校高等学校)
〒106-0047 東京都港区南麻布 5-1-14
TEL. 03(3444)7271 FAX. 03(3444)7192
www.junshin.ac.jp

小山 和智

おやま かずとも

広尾学園中学校高等学校 国際担当
(現、順心女子学園中学・高校)



海外子女教育振興財団の外国語保持教室主任のほか、ジャカルタ日本人学校事務長、クアラルンプール日本人学校国際交流ディレクター、啓明学園国際教育センター所長を歴任。
現在は「グローバル化社会の教育研究会」の事務局長としても活躍中。

<http://www.toshima.ne.jp/~kyoiku/>



英語補習校だより (6)

広尾バイリンガル教室

英語補習校(ネイティブレベルの児童対象)は、おかげまでご好評をいただいています。2年目からは一応の学年別編成もできるようになり、指導内容もいっそう充実してきました。

しかし、アメリカ式教育Gr. 4または英国式教育Y 5相当を修了していることを入級条件としているため、低学年や幼児期に帰国・来日した児童には参加が認められません。受講生の弟や妹を「何とか入れてほしい」という“直訴”が多く寄せられますし、毎週教室にやってきて、授業の様子を窓から恨めしそう眺めている子供もいるのです。

そこで今年の4月から、学園では、低学年や幼児期に帰国・来日した児童のために「広尾バイリンガル教室」を開設し、平日の夕方2時間の指導をすることにいたしました。英語補習校は通常の授業ですが、こちらは「あなたの身の回りのもの」「お祭り」あるいは「食べもの」といったテーマ別学習により、会話のコミュニケーション力や「読む」力、また、スベルや文法も含めた「書く」力を高めるようにしています。

9月からは火曜・水曜の16時～18時の開設となります。わずか10名余りのささやかな営みですが、国際結婚の家庭を中心に、静かな広がりを見せ始めました。帰国児対象の幼児英語教室に飽き足りない子供たちに喜んでもらえるよう、いろいろ工夫をしております。

<http://www.toshima.ne.jp/~kyoiku/Hiroo-Bilingual.htm>

編集長から一言

「目が離せない学校」広尾学園からの、様々な「変革」の中間報告です。

先の教育フェアに参加された小山先生、共学化・海外入試・英語補習校・インターナショナルコース等々、「変革」の詳細について、保護者への説明にフル回転でした。

都心の「広尾」にあるからでしょうか、男の子の保護者から、もう既に多くの問い合わせが来ているそうです。まずは、安心!